

一般社団法人ぎふクリーン農業研究センター  
**平成27年度事業報告書**  
平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

## I 法人の概況

### 1 設立年月日

平成16年8月16日

### 2 定款に定める目的（第3条）

岐阜県産農畜産物の安全性の確保、安心感の向上及び県民の健康増進に関し必要な検査、調査、研究及び啓発を行い、もって県内農畜産業の健全な発展に寄与する。

### 3 定款に定める事業内容（第4条）

- (1) 残留農薬分析、土壌分析、米食味分析その他分析検査事業
- (2) 健康増進に関わる農畜産物の研究開発事業
- (3) 岐阜県産農畜産物の情報提供、普及啓発事業
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

### 4 所管官庁に関する事項

岐阜県（農政部農政課）

### 5 会員の状況

種類	区分	当期末	前期末比較増減
正会員	団体	11団体	—
賛助会員	団体	5団体	—
	個人	—	—
合計	団体	16団体	—
	個人	—	—

### 6 事務所所在地

岐阜市宇佐南4丁目11番5号

### 7 役員等に関する事項

（平成28年3月31日現在）

役職名	氏名	常勤・非常勤の別	現職
理事長	山内 清久	常勤	学識経験者
理事	櫻井 宏	非常勤	ぎふ農業協同組合代表理事組合長
理事	駒屋 廣行	非常勤	飛騨農業協同組合代表理事組合長
理事	足立 能夫	非常勤	全国農業協同組合連合会岐阜県本部運営委員会会長
理事	若宮 克行	非常勤	岐阜県農政部長
理事	前澤 重禮	非常勤	国立大学法人岐阜大学応用生物科学部教授
監事	松永 政人	非常勤	岐阜県農業協同組合中央会専務理事
監事	桑田 博之	非常勤	全国農業協同組合連合会岐阜県本部長

- ・理事：現在数6人（定款第12条第1項第1号による定数は4人以上10人以内）
- ・監事：現在数2人（定款第12条第1項第2号による定数は2人以内）
- ・任期：2年（平成27年6月30日～平成29年6月の通常総会終結時）

## 8 職員等に関する事項

(平成28年3月31日現在)

職員の区分	人数	備 考
職 員	7名	管理部門2名、事業部門5名
嘱 託 員	1名	
派遣職員	1名	育児休業職員の代替
計	8名	

## 9 許認可に関する事項

該当無し

## II 事業の状況

### 1 農産物の安全性確保及び品質向上に関する業務

#### (1) 残留農薬分析業務

##### ア 多成分一斉分析（スクリーニング分析）

##### (ア) 分析件数

J Aグループの自主検査対応を主体とする会員からの受託についてはほぼ順調であり、穀類では計画及び前年実績を上回った。

区分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
穀 類	130件	155件	119.2%	154件	100.6%
会 員	125件	152件	121.6%	152件	100.0%
一 般	5件	3件	60.0%	2件	150.0%
園芸作物	720件	714件	99.2%	731件	97.7%
会 員	715件	710件	99.3%	725件	97.9%
一 般	5件	4件	80.0%	6件	66.7%
合 計	850件	869件	102.2%	885件	98.2%
会 員	840件	862件	102.6%	877件	98.3%
一 般	10件	7件	70.0%	8件	87.5%

##### (イ) 分析品目数

年間70品目の分析を行った。(うち3品目は新規品目)

現在123品目の分析が可能である。

分析件数	品 目 名
50件以上	玄米、トマト、ほうれんそう (3品目)
10～49件	苺、かき、茶、なす、きゅうり、ねぎ、小松菜、枝豆、だいこん(根)、小麦、たまねぎ、人参(根)、さといも、未成熟ささげ、ブロッコリー (15品目)
10件未満	かぼちゃ、日本なし、さつまいも、キャベツ、みずな、しゅんぎく、伏見甘長とうがらし、じゃがいも、ピーマン、なばな、白菜、未成熟そら豆、未成熟いんげん、粟、しいたけ、モロヘイヤ、大麦、ぶどう、みかん、もも、いちじく、メロン、サンショウ(実)、ふき、チンゲン菜、やまのいも、にがうり、とうもろこし、グリーンピース、にんにく、パセリ、ミョウガ、オクラ、だいこん(葉)、レタス、シソの葉、はこべ、ズッキーニ、タアサイ、かぶ(根)、うめ、ししとう、ごぼう、カリフラワー、さんとうさい、あおうり類、柿の葉、だいち、キクイモ、カラシナの葉、らっきょう、コールラビ (52品目)

(ウ) 分析結果

前年実績に比べ検出値報告事例が増加し、近年は減少傾向にあったが5年ぶりに増加に転じた。

(前年実績 74件(8.4%))

区分	全 体	内 訳	
		検出あり	検出なし
分析試料数	869件 (100%)	96件 (11.0%)	773件 (89.0%)
報告成分数	243,527成分 (100%)	122成分 (0.05%)	243,405成分 (99.95%)

イ 単成分分析

スクリーニング分析の検出値報告件数の増加等に相まって、計画及び前年実績を上回った。

区分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
穀 類	30 件	34 件	113.3 %	31 件	109.7 %
園芸作物	30 件	31 件	103.3 %	29 件	106.9 %
その他	20 件	61 件	305.0 %	18 件	338.9 %
合 計	80 件	126 件	157.5 %	78 件	161.5 %

(2) かび毒分析業務

受託がなかった。

区分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
小麦他	10 件	0 件	0.0 %	3 件	0.0 %

(3) 土壌分析業務

全体として計画を上回る受託があり、特に園芸品目対象では前年実績を大幅に上回った。

区分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
穀類対象 3項目	100 件	141 件	141.0 %	177 件	79.7 %
園芸対象 7項目	600 件	825 件	137.5 %	665 件	124.1 %
合 計	700 件	966 件	138.0 %	842 件	114.7 %
定点調査	50 件	64 件	128.0 %	82 件	78.0 %

(4) 米食味分析業務

計画及び前年実績を上回る受託状況であった。

区分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
玄米	250件	274件	109.6%	219件	125.1%

(5) その他分析業務

玄米のDNA及びカドミウム分析については、アウトソーシングにより実施しており、前年と同様の実績であった。

区分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
DNA	100件	113件	113.0%	113件	100.0%
カドミウム	100件	112件	112.0%	111件	101.0%

## 2 農畜産物の認定、認証及び調査に関する業務

○特別栽培米生産管理工程確認の評価業務

前年度に引き続き、ぎふ特別栽培米取扱要領に基づく生産管理工程の確認業務について、全農岐阜県本部より諮問を受け、その評価業務を実施した。

<評価業務内訳>

実施日	評価対象工程
27.07.16	平成27年産米確認申請(追加)及び変更申請工程
27.09.10	平成27年産米変更申請工程
27.11.06	平成27年産米(早生品種)栽培記録検証工程
27.11.26	平成27年産米(晩生品種)栽培記録検証工程
	平成27年産米精米・玄米袋表示原簿作成工程

## 3 健康増進に関わる農産物及び食品の開発・研究等に関する業務

○生産流通現場改善研究事業

- ・生産流通現場の課題の顕在化とその解決策の構築

【研究題目】 イチゴのアグリビジネス化に関する研究

【研究委託先】 岐阜大学

<調査研究結果の概要>

- ・現状：イチゴ生産の一層の振興には、アグリビジネス化を念頭に置いて、栽培面積・出荷量の増大を図る必要があると考える。しかし、高年齢の生産者には規模拡大への意欲が感じられず、一方、岐阜イチゴの将来を担

う若手生産者の場合は資金的な事情等から規模拡大は容易ではないと考えられ、積極的にアグリビジネス化を目指す段階には至っていない。

・提案：「パッキングセンター(略称＝P C)」導入検討について

生産者を収穫後の作業から解放し、栽培管理に集中させて規模拡大を図る仕組みとして、選別やパック詰めを専門に行う「パッキングセンター」の導入を検討する。

具体的には、

(1)行政とJAグループが連携して生産者に導入の有利性を理解させることに努め、設備の導入に当たっては、初期費用を関係機関が負担する産地支援システムを創設する。

(2)P Cの運用については、その効率上から作業従事者の通年配置と設備の常時稼働が望ましく、イチゴ以外の作物にも対応できる機能を備えることを念頭に置く。

(3)上記提案の具現化に向けてのポイントは、生産者と直接向き合う役割を担う「人」づくりである。事業成功のキーマンとなるのは行政とJAグループの最前線の職員であり、関係する各機関がこの「人」づくりに積極的に取り組むことにより事業の成功が期待できると考える。

#### 4 岐阜県産農産物の情報提供・啓発に関する業務

##### (1) 普及啓発業務

県内外からの視察研修の受け入れを行い、センターの活動を中心とした県内産農産物の安全性の確保・安心感の向上に向けた取り組みについて普及啓発を行った。

開設以来、産・学・官が共同で設立した全国でも例を見ない研究機関として県内外から注目を集め、平成26年度までの10年間の視察研修者は、延べ202団体、2千8百人余に上ったが、ここ数年は減少する傾向にある。

区 分	県 内		県 外	
	件 数	人 数	件 数	人 数
JA・生産者関係	0 件	0 名	1 件	20 名
行政関係	0 件	0 名	0 件	0 名
そ の 他	0 件	0 名	0 件	0 名
計	0 件	0 名	1 件	20 名

##### (2) 情報提供業務

会員及び関係機関や県内生産者を対象に、一般消費者等も視野において、当センターを有効に活用していただくことを目的として、業務の紹介、ぎふクリーン農業に関する情報、経営状況等をインターネットのホームページ上で公開しており、常に最新の情報を提供するとともに、窓口にも資料を備え置いて利用者サービスの向上に努めた。

#### 5 会議に関する事項

##### (1) 総会の開催

ア 第30回臨時総会（決議の省略）

（ア）決議日：平成27年5月8日

（イ）開催方法：定款19条の規定に基づくみなし総会

（ウ）議事：理事1名の選任（平工孝義理事辞任によるもの）

選任された役員

理事 新任 若宮克行（県農政部長）

イ 第31回通常総会

（ア）開催日：平成27年6月30日

（イ）開催場所：JA会館 大会議室

（ウ）議事：平成26年度事業報告・収支決算、平成27年度補正予算

任期満了に伴う役員選任

選任された役員

理事 重任 山内清久（学識経験者）

理事 重任 櫻井 宏（ぎふ農協代表理事組合長）

理事 重任 駒屋廣行（飛騨農協代表理事組合長）

理事 重任 足立能夫（全農岐阜県本部運営委員会会長）

理事 重任 若宮克行（県農政部長）

理事 重任 前澤重禮（岐阜大学応用生物科学部教授）

監事 新任 松永政人（県農協中央会専務理事）

監事 重任 桑田博之（全農岐阜県本部県本部長）

イ 第32回臨時総会

（ア）開催日：平成28年3月9日

（イ）開催場所：JA会館 県中央会役員会議室

（ウ）議事：平成28年度事業計画、会員別負担金、役員報酬、収支予算、

平成27年度事業実施見込み

(2) 理事会の開催

ア 第1回理事会（決議の省略）

（ア）決議日：平成27年4月20日

（イ）開催方法：定款第33条の規定に基づくみなし理事会

（ウ）議事：第30回臨時総会（決議の省略）の開催

イ 第2回理事会

（ア）開催日：平成27年6月11日

（イ）開催場所：JA会館 全農岐阜県本部役員会議室

（ウ）議事：平成26年度事業報告・収支決算、公益目的支出計画実施報告

書の承認、平成27年度補正予算、諸規程の改正、第31回通常

総会の開催

ウ 第3回理事会（決議の省略）

（ア）決議日：平成27年7月1日

（イ）開催方法：定款第33条の規定に基づくみなし理事会

（ウ）議事：理事長の選定

選定結果

理事長 重任 山内清久（学識経験者）

エ 第4回理事会（決議の省略）

（ア）決議日：平成28年1月4日

（イ）開催方法：定款第33条の規定に基づくみなし理事会

(ウ) 議 事：諸規程の一部改正

オ 第5回理事会

(ア) 開 催 日：平成28年2月8日

(イ) 開催場所：JA会館 県中央会役員会議室

(ウ) 議 事：平成28年度事業計画、会員別負担金、役員報酬、収支予算、  
第32回臨時総会の開催  
平成27年度事業実施見込み